

主題：イエスにあるあの実際にしたがってキリストを学ぶことによって、
キリストのからだの実際の中で生きる

メッセージ 15

模範と注ぎのささげ物としてのキリストを知り、経験する

聖書：ピリピ 2:5-9, 17

I. わたしたちは、わたしたちの模範としてのキリストを知り、キリストをわたしたちの模範とすることによって、キリストのからだの実際の中で生きます——ピリピ 2:5-13:

- A. わたしたちはキリストをわたしたちの模範であることを知ろうとするなら、キリスト・イエスの中にあつた思いをわたしたちの思いとすべきです——ピリピ 2:5:
1. わたしたちは、キリストの思いをわたしたちの思いとし、自分を開いて、「この思い」をわたしたちの内側でも思いとする必要があります——3-5 節:
 - a. 謙虚な思いは、自分本位の野心と虚栄に相對します (3 節)。これは、わたしたちの生まれながらの謙虚であつてはならず、キリストの謙虚でなければなりません (8 節)。
 - b. このような思い、このような考えは、キリストがご自身をむなしくし、ご自身を低くした時に、キリストの中にありました——7-8 節。
 2. 「この思い」を持つために、わたしたちはキリストの心の深みの中で、彼の優しい内側の感覚の中で、彼の考えの中で、彼と一である必要があります——1:8。
 3. キリストの思いがわたしたちの中にあるとは、この思いが生きたものであることを意味します。実は、キリストの思いは、キリストご自身です。なぜなら、キリストのパーソンは、彼の思いの中で現されるからです——2:5. 参照、I コリント 2:16、フットノート 1。
- B. わたしたちはキリストを経験するために、彼が模範であることを知る必要があります——ピリピ 2:5-9:
1. ピリピ第 2 章 5 節から 9 節において、パウロはキリストが模範であることを提示しています。わたしたちは、この模範がわたしたちの中へと注入されることを必要とします。
 2. クリスマン生活の模範は、神・人である救い主です。彼はご自身をむなしくし、ご自身を低くし、そして神によって高く引き上げられ、栄光が現されました——6-9 節。
 3. 主は神と等しくありましたが、神と等しくあるのを固守し維持すべき尊いこととは見なしませんでした。そうではなく、主はご自身をむなしくし、自分の所有しているもの (神の形) をわきに置きました——6-7 節前半:
 - a. 主は肉体と成ったとき、ご自身の神聖な性質を変えませんでした。
 - b. 彼は外側の表現を、神の形から奴隷の形へと変えただけでした。
 4. 主は、「人の姿に」なられました——7 節後半-8 節前半:

- a. 「神の形」は、キリストの神格の内側の実際を暗示します。「人の姿」は、彼の
 人性の外側の表現を示します——6-7 節。
 - b. 彼は外側では人として、人々に現れました。しかし、彼は内側では神として、
 神格の実際を持っていました——ヨハネ 1:1, 14, 18. 3:16. ローマ 8:3。
 - c. キリストは人性の状態の中へと入り、人としての有り様で見いだされました——
 ピリピ 2:8 前半。
5. キリストはご自身を低くして、死にまでも、すなわち十字架の死に至るまでも従
 順になられました——8 節後半：
- a. ご自身を低くすることは、ご自身をむなしくすることのさらに進んだ一歩でし
 ました。
 - b. キリストがご自身を低くしたことは、彼がご自身をむなしくしたことを明らか
 にしました——7-8 節。
 - c. 十字架の死は、キリストの辱めの絶頂でした。
6. 御子は、喜んで自分自身をむなしくし、創造された人と成って、権威に対する服
 従を表しました——6-8 節：
- a. 主イエスは、死に至るまで服従する道にご自身を服従させることを決意されま
 した——イザヤ 50:7. ルカ 9:51. マルコ 10:32-34。
 - b. 主は「御子であられたのに、受けた苦しみによって従順を学ばれました」——
 ヘブル 5:8：
- (1) 神は、キリストが死ぬべきことを定め、そしてキリストはそれに従いました——
 ピリピ 2:8。
 - (2) 彼は死の苦難を通して、この従順を学びました。
- c. 生涯を通じて服従した主は、彼の服従の命をわたしたちに与えてくださいまし
 ました。信者の従順は、キリストに従順の模範とすることの結果です——8 節. コロ
 サイ 3:4。
7. 主は、極みに至るまでご自身を低くしました。しかし、神は彼を最高峰へと高く
 引き上げ、そして、「あらゆる名にまさる名」を彼に与えました——ピリピ 2:9。
- II. わたしたちはキリストのからだの実際の中で生きているなら、注ぎのささげ物として
 のキリストを知り、経験し、キリストの中で注ぎのささげ物となります——ピリピ
 2:17：**
- A. 注ぎのささげ物は、キリストが真のぶどう酒として神の御前に注がれて、神を満足
 させる方であることを予表します——出 29:40-41：
- 1. 注ぎのささげ物は、基本的なささげ物に付け加えられたものであり、基本的なさ
 さげ物の上に注がれました——民 15:1-10. 28:7-10。
 - 2. 注ぎのささげ物のぶどう酒は注がれて、神を満足させました。それが注がれたの
 は、神が飲むためでした——出 29:40-41：
- a. キリストは全存在を神に注ぎました——イザヤ 53:12。
 - b. キリストは天的で、霊的なぶどう酒であり、神に向かって注がれて神を喜ばせ
 ます。キリストはご自身をぶどう酒として注いで、神を幸いにしました。
- 3. ぶどうの木はいけにえとなるキリスト、すなわち、ご自身のすべてをいけにえと

したキリストを描写しています。彼のいけにえから、彼は新しいぶどう酒を生み出し、神と人を歓喜させました——士 9:13 :

- a. キリストはぶどう酒を生み出す方であり、ご自身をいけにえとしてぶどう酒を生み出し、神と人を歓喜させます。
 - b. わたしたちがこのキリストと接触し、いけにえとなる彼の命を経験するなら、彼はわたしたちに力を与えていけにえの命を生きさせ、ぶどう酒を生み出して人と主を幸いにします——Ⅱコリント 1:24 後半。
- B. 注ぎのささげ物は、単にキリストご自身を予表するだけではありません。それは、天のぶどう酒としてのご自身でわたしたちに浸透して、彼とわたしたちが一になり、神の享受と満足のために、また神の建造のために注がれたキリストをも予表します——マタイ 9:17. ピリピ 2:17. Ⅱテモテ 4:6 :
1. 注ぎのささげ物は、ささげた人が享受した天のぶどう酒としてのキリストを予表します。キリストの天のぶどう酒は、ささげる人を満たして、神へのぶどう酒とさえならせます——ピリピ 2:17 :
 2. わたしたちはささげ物としてのキリストを経験することによって、キリストで満たされ、浸透された人になります——エペソ 3:17. ガラテヤ 4:19。
 3. わたしたちが主観的に経験するささげ物としてのキリストは、わたしたちの中でぶどう酒となって、わたしたちを極みまで幸いにし、喜ばせます——マタイ 9:17. Ⅱコリント 5:13 前半。
 4. 最後に、わたしたちは天のぶどう酒であるキリストで浸透され、ぶどう酒と一になり、ぶどう酒とさえなります。このようにして、わたしたちは注ぎのささげ物となるように資格づけられるのです——マタイ 9:17. Ⅱコリント 5:13 前半. エペソ 5:2. ピリピ 2:17 :
 - a. 注ぎのささげ物は、わたしたちが主と一とされたことの主観的な経験であり、主がわたしたちとさえなります。
 - b. わたしたちはささげ物としてのキリストを経験すればするほど、ますます注ぎのささげ物となり、神の心の願いを満足させ、キリストのからだとしての召会を建造します——民 15:1-10。